

Durare Chamber String Ensemble コンサートシリーズ6

J.S. バッハへの想い ～弦楽五重奏で迫るゴルトベルク～



ゲストヴァイオリン：松原勝也



鈴木崇洋 (Vn)



井野公実 (Va)



ルドヴィート・カンタ (Vc)



高柳安佐子 (Cb)

ピアノはもちろんのこと、チェロ独奏や弦楽トリオなど
様々なアレンジで親しまれているゴルトベルク変奏曲を
弦楽五重奏でお楽しみください。

J.S. バッハ（松原勝也編）

・プレリュードとフーガ ハ短調 BWV546（弦楽五重奏版）

PRELUDE AND FUGUE IN C MINOR, BWV546

・ゴルトベルク変奏曲 BWV988（弦楽五重奏版）

GOLDBERG VARIATIONS BWV988

2025年

1月30日 (Thu)

18:15開場 18:45開演

ザコンサートホール
名古屋・伏見・電気文化会館

入場料／全席自由 9月24日発売開始！
一般3,500円 大学生以下2,000円

【チケット取り】

- ・チケットぴあ (Pコード /280-422)
- ・名古屋文化振興事業団プレイガイド
☎ 052-249-9387(平日9:00～17:00/郵送可)
- ・アイチケット ☎0570-00-5310
- ・芸文プレイガイド ☎052-972-0430

【お問合せ】 Durare Chamber String Ensemble TEL/052-526-8920

【主催・お問合せ】

Durare Chamber String Ensemble

→公式サイト、チケット購入や演奏動画、メイキング映像など公開しています。



Durare Chamber String Ensemble

コンサートシリーズ6

J.S. バッハへの想い～弦楽五重奏で迫るゴルトベルク～

東海地区を中心に活躍するプロの演奏家が結成した弦楽アンサンブル
クラシック界の第一線で活躍するゲストをお招きしこだわり抜いた本気の音楽をお届けします。

今回は、第一ヴァイオリンに松原勝也をお迎えし、松原氏のアレンジによる「プレリュードとフーガ」「ゴルトベルク変奏曲」の2曲をお楽しみいただきます。クラシックからタンゴまで、幅広いジャンルに精通した松原氏、さまざまな編成で演奏されているゴルトベルクを、アンサンブルの基礎となるとなる弦楽五重奏で迫ります。



松原勝也(ヴァイオリン)

東京藝術大学、同大学院修了。新日本フィル・コンサートマスターを歴任。これまでに、無伴奏リサイタル・シリーズ、武満 徹室内楽作品全曲演奏、ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏、ロンドン・ウイグモア・ホールでのリサイタルなど様々な活動を行っており、また、ジュニアフィルハーモニックオーケストラの指導に長年携わってきた。また、作編曲家として、バッハ:「ゴルトベルク変奏曲」「プレリュードとフーガ」の弦楽五重奏版がそれぞれライヴ・ノーツ・レーベルよりCD発売されている。2018年にはブラームス:弦楽六重奏曲第2番の管弦楽編曲版が長崎大村室内合奏団定期演奏会で初演された。また、弦楽アンサンブルの作品として、「どこまでも!」組曲「キケロ」弦楽五重奏のための「ファンタジア」等がある。静岡A01レジデンス・クワルテット、クワルテット・アーニマメンバー、長崎OMURA室内合奏団アーティストリック・アドヴァイザー、ジュニアフィルハーモニックオーケストラ講師、東京藝術大学教授。



鈴木崇洋(ヴァイオリン)

宮城県出身愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。愛知県室内オーケストラヴァイオリン奏者。東海バロックプロジェクトメンバー。ピアノ三重奏団「Trio de cloche」で定期的にツィクルスコンサートを行っている他、「Baroque works」では古楽器を用いて良質な楽曲と珈琲を

年に2回提供している。2022年には富山にて保坂喬子氏と共同でH. I. F. Biberの「ロザリオ・ソナタ」全曲演奏会を行い好評を博した。ヤマハミュージックジャパン講師。



ルドヴィート・カンタ(チェロ)

スロヴァキア出身。ブラチスラヴァ音楽院、ブラハア카데미卒業。1980年ブラハの春国際コンクール第2位。スロヴァキアフィルハーモニー管弦楽団チェログループのコンサートマスター、後にオーケストラアンサンブル金沢首席、愛知県立芸術大学客員教授などを経て現在はフリーランスアーティストとして活動中。2010年岩城宏之賞を受

賞。2012年スロヴァキア共和国外務省よりゴールド・メダル受賞。2018年スロヴァキア共和国外務省より親善特使の称号を授与。2023年日本国より旭日単光章受章。



井野公実(ヴィオラ)

1995、東京音楽大学付属高等学校入学。ハノーバーで開催されたexpo2000の協賛事業に東京音楽大学の代表メンバーとして参加し西村朗氏の新曲「Nirvan(涅槃)」を世界初演。2002年10月、学内オーディションに合格し、東京のトッパンホールにて、ヴァイオリニスト久保陽子氏と東京音楽大学の弦楽アンサンブル・エンドレスでモーツァルトのヴァイオリンと

ヴィオラと管弦楽のための協奏交響曲を共演。中部読売新人演奏会に出演。1999年、東京音楽大学入学し在学中特待生として奨学金を得、首席で卒業する。その後より高いレベルの演奏を追求するため桐朋学園音楽部研究生となる。2005年セントラル愛知交響楽団入団。2018年ソロリサイタル開催。豊嶋泰嗣、クロード・ルローン、兎東俊之、店村真積の各氏に師事。



高柳安佐子(コントラバス)

名古屋音楽大学院修士課程、愛知県立芸術大学器楽学科研究生修了。中部読売新人演奏会に出演。露・マリンスキー歌劇場管弦楽団首席奏者、サンクトペテルブルグ音楽院教授Alexsandr Shilo氏のもと、また、米・オペリン音楽院にて研鑽を積む。オケなどの客演の他、ボーリンググリーン大学音楽科にて教鞭にあたる。コントラバス協奏曲を、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団と共

演。2017年サンクトペテルブルグ国際コントラバス音楽祭に出演。2009年より、セントラル愛知交響楽団契約団員。また、日本で稀少な1/16サイズ等の分数コントラバスを手に入れ、子供向けのコントラバス育成や普及活動を積極的に取り組み、後進の指導に関する研究を進めている。